

介護技術講習会導入の経緯及び実践状況の報告

—香川短期大学における取り組みから—

黒 木 ひとみ・植 谷 澄 子・草 薙 眞由美・藤 井 園美子・岡 崎 昌 枝
薦 田 美貴世・辰 巳 裕 子・岩 永 十紀子・横 本 俊 美

はじめに

介護福祉士は、昭和62年に制定された社会福祉士及び介護福祉士法（以下、介護福祉士法）により創設され、平成29年1月末現在の介護福祉士登録者数は1,495,672人¹⁾である。介護福祉士の資格取得方法にはさまざまなルート（図1）があるが、平成17年度時点では、大きく2つに分けられ、介護福祉士養成施設²⁾（以下、養成施設ルート）を卒業する方法及び3年以上介護の業務に従事した者等³⁾が介護福祉士国家試験に合格する方法（以下、実務者ルート）であった。介護福祉士国家試験は、筆記試験とその合格者に限り実技試験がある。介護技術講習会は、この実技試験の代わりとして厚生労働省が平成17年度から導入した。本稿では、この介護技術講習会の導入の経緯及び本学での取り組みから実践状況を報告する。

1. 介護技術講習会とは

介護技術講習会は、介護福祉士国家試験の実技試験の代わりとなる講習会であり、「介護等に関する専門的技術について行う講習」として介護福祉士法施行規則⁴⁾に規定された。介護技術講習会を開催できるのは、介護福祉士法で指定された介護福祉士養成施設（以下、実施施設）等である。介護福祉士国家試験の受験者は、受験申込時にあらかじめ筆記試

験合格後の実技試験を実技試験受験か介護技術講習^{5) 6)}（図2）受講のいずれかを選択する。介護技術講習会を受講し、「介護技術講習修了証明書」の交付を受けた者は、それを社会福祉振興・試験センター（以下、試験センター）へ提出することにより実技試験が免除される。修了証明書の交付を受けられなかった者は、「実技試験免除申請取下書」を同センターに提出し、筆記試験合格後、実技試験の受験が必要となる。

2. 導入の経緯と背景

平成13年3月30日、厚生労働省は「介護福祉士試験の実施方法に関する検討会」⁷⁾において、実技試験の採点基準や合否基準の見直し等の検討結果とともに、今後の改善の方向性を報告した。その中で、実技試験の課題を解決するために代わりとなる講習会の導入等について検討したが、結論に至らなかった。

平成15年6月24日、厚生労働省は、日本介護福祉士養成施設協会会長を座長とする「介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会」を設置し、平成16年6月2日、報告書⁸⁾に「介護技術講習会制度」の導入案を提出した。その中で、介護技術講習会の実施者は、介護福祉士養成施設とされた。『養成校の7割が定員を充足していない状況の中で、国家試験受験者に有利な制度の導入は、養成校にとって不利になる。それなのにどうして養成校が実施主体にならないといけなのか』⁽¹¹⁴⁰⁾と実務者ルートの受験者を養成することについては、反対する養成施設も多かった。しかし、将来的には資格取得制度一本化への暫定的経過措置であることが

平成29年1月6日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇津町浜一番丁10番地
香川短期大学 生活文化学科
TEL 0877(49)5530 FAX 0877(49)5252
Email kurogi@kjc.ac.jp

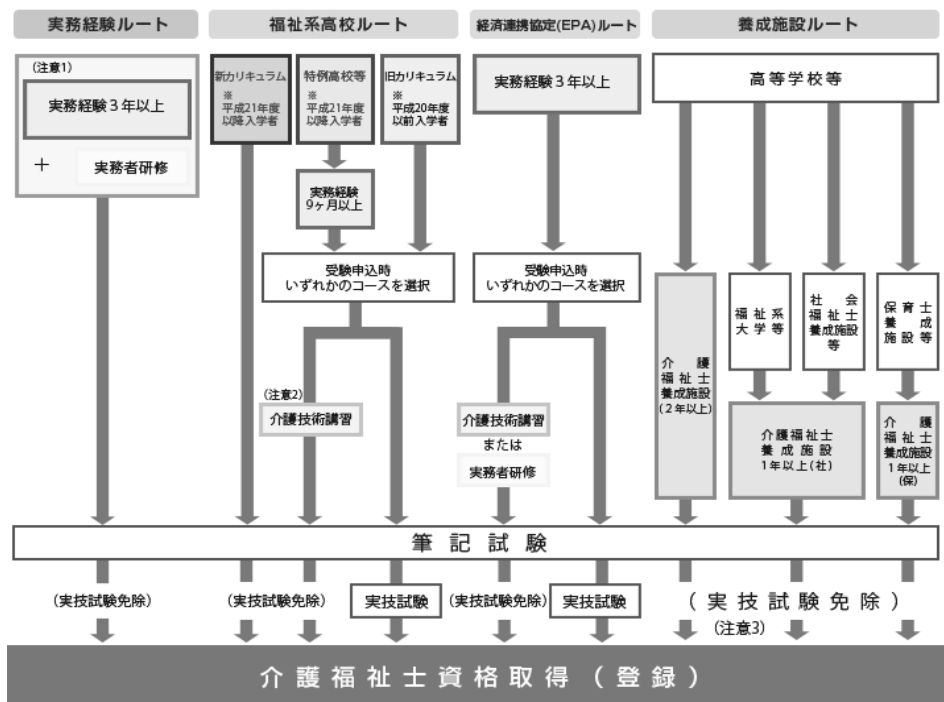


図1 資格取得ルート図（第30回介護福祉士国家試験から）

出典：公益社団法人 社会福祉振興・試験センター（注1～注3については略、出典を確認のこと）

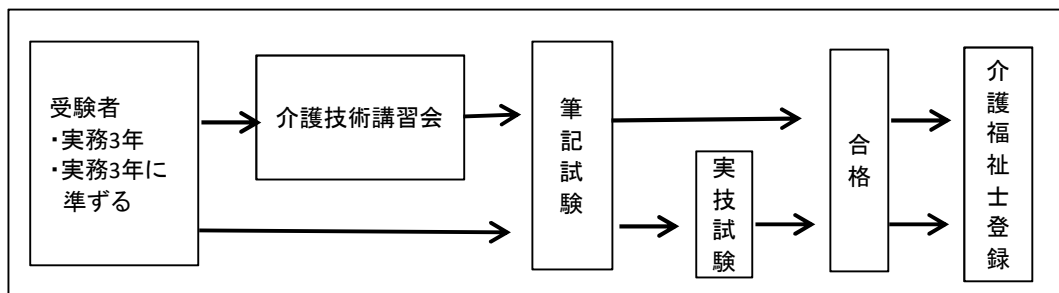


図2 介護技術講習会の位置図（平成17年度～平成27年度）

（介護技術講習会「受講の手引き」介護福祉士の資格要件図及び中央法規出版新介護福祉士養成講座15資料編 資格取得ルート図平成23年度を参考に筆者作成）

予測されることを踏まえ、実施していくこととなった⁹⁾。

平成16年6月25日、日本介護福祉士養成施設協会及び日本介護福祉士会は、主任指導者養成講習会及び指導者養成講習会について、必要に応じ、連携・協力¹⁰⁾する等とした。

平成16年10月19日、厚生労働省社会・援護局長は「社会福祉士及び介護福祉士法施行規則の一部改正について（通知）」¹¹⁾を各介護福祉士養成施設等の設置者に通知した。改正の趣旨は、実技試験の受験者が年々増大（図3）していることによる試験の実施体制、受験者の資の向上などの課題を解決するため

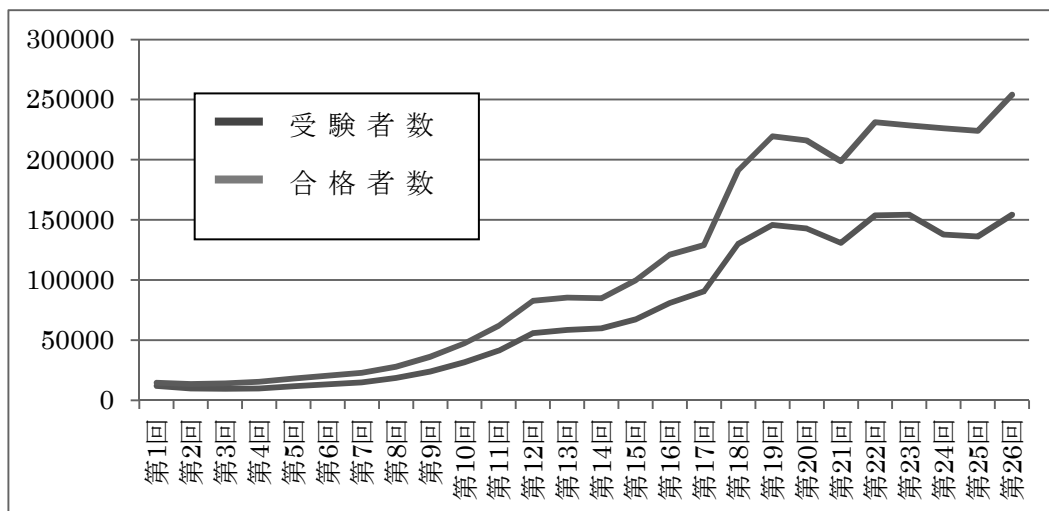


図3 介護福祉士国家試験の受験者・合格者の推移
出典：厚生労働省介護福祉士国家試験の受験者・合格者の推移

に、介護技術講習を実施、修了した者に実技試験を免除する制度を導入するとした内容である。また、「介護技術講習実施要領」を定め、介護福祉士国家試験の実技試験に代わるものとして、全国の各介護技術講習会は、差異無く一定の質は担保されることとなった。

3. 本学の取り組みの経緯

介護技術講習会実施の有無は各養成施設に判断が委ねられた。本学においても社会が求めている介護職員の量的・質的ニーズ¹²⁾に対応すべき事業であり、資格取得制度一本化への暫定的経過措置でもであると判断し、実施することとなった。

平成16年9月18～19日の2日間、本学教員3名が日本介護福祉士養成施設協会による主任指導者養成講習¹³⁾ ¹⁴⁾を受講、修了した。

平成16年9月30日、介護実習を依頼している施設へ「介護技術講習指導者講習会のご案内」を送付し、指導者¹⁵⁾ ¹⁶⁾として協力を得られるよう職員派遣を依頼した。

平成16年11月6～7日、主任指導者講習を修了した本学教員3名が講師となり、本学にて「介護技術講習指導者養成講習会」を開催した。施設からは12

名の受講希望者があり、本学教員2名を合わせた14名¹⁷⁾が受講した。修了者に学長が「指導者養成講習修了証明書」を発行した。

平成17年度から本学による介護技術講習会を開催した。

平成28年度から介護福祉士国家試験の方法は変更¹⁸⁾となった。介護技術講習会の受講対象が限られた者¹⁹⁾のみとなることから、本学での介護技術講習会は平成27年度をもって終了した。

4. 開催回数、受講者の人数及び所属

本学における11年間の合計開催回数は30回、受講者数は男性154人、女性874人、合計1,028人、年齢は最低年齢17歳、最高年齢68歳、平均37.4歳であった。所属は特別養護老人ホーム196人、介護老人保健施設134人、医療施設77人、障害者支援施設48人、その他の施設58人、通所介護81人、訪問介護233人、認知症対応型共同生活介護59人、高校生²⁰⁾ 125人、その他17人であった。(表1)

平成20年度から開始した経済連携協定(EPA)²¹⁾等に基づく外国人介護福祉士候補者²²⁾(以下、外国人)の受講希望があり、平成23年度から平成27年度までの5年間に合計30人が受講した。

表1 香川短期大学介護講習会受講者及び修了者の人数並びに所属状況（人）

年度	回数	性別		受講者数	修了者数	所 属											外国人 (再掲)
						入所施設・病院					居宅事業所			高校生	その他		
		特養	老健			医療施設	障害者施設	その他	通所系	訪問	グループ						
H17年	1回	7	33	40	37	6	4	1	1	0	2	7	0	19	0		
	2回	4	36	40	35	9	2	0	5	1	2	18	1	0	2		
	3回	5	35	40	37	8	13	1	0	0	1	15	0	0	2		
	4回	6	34	40	38	12	6	0	1	2	1	16	0	1	1		
H18年	1回	3	37	40	38	10	10	7	1	1	3	7	1	0	0		
	2回	5	35	40	40	6	6	1	0	0	1	9	1	16	0		
	3回	4	36	40	40	6	10	3	1	1	5	10	4	0	0		
	4回	7	33	40	35	4	8	5	0	2	2	16	3	0	0		
H19年	1回	3	37	40	36	5	3	2	0	0	5	19	5	0	1		
	2回	5	35	40	36	3	4	2	1	2	1	16	7	4	0		
	3回	8	32	40	38	5	4	3	1	0	1	9	3	14	0		
	4回	9	31	40	36	7	4	4	1	1	4	6	10	1	2		
H20年	1回	2	20	22	20	1	1	7	0	3	1	6	1	1	1		
	2回	3	22	25	25	4	0	2	1	2	1	9	4	1	1		
	3回	8	29	37	36	3	0	3	0	0	2	3	0	26	0		
	4回	3	17	20	18	4	2	3	2	2	1	2	2	2	0		
H21年	1回	10	30	40	40	7	3	1	3	2	5	4	3	12	0		
	2回	9	31	40	39	8	6	5	3	4	3	8	1	1	1		
H22年	1回	3	36	39	39	6	4	3	2	2	6	4	3	8	1		
	2回	9	26	35	35	7	1	1	6	1	0	1	1	16	1		
H23年	1回	4	16	20	20	8	1	1	0	4	2	4	0	0	0	0	
	2回	0	16	16	16	7	1	0	2	0	1	5	0	0	0	2	
H24年	1回	2	32	34	33	10	7	3	1	2	4	5	1	0	1	8	
	2回	5	18	23	22	5	1	2	3	6	1	3	0	0	2	0	
H25年	1回	8	32	40	39	5	4	6	0	2	8	13	2	0	0	8	
	2回	3	29	32	32	8	7	3	1	2	5	5	0	1	0	0	
H26年	1回	6	34	40	38	8	8	2	4	6	2	6	3	0	1	5	
	2回	4	19	23	23	8	1	5	0	1	4	1	2	1	0	0	
H27年	1回	2	25	27	26	4	5	0	5	6	4	2	1	0	0	0	
	2回	7	28	35	33	12	8	1	3	3	3	4	0	1	0	7	
合計		154	874	1028	980	196	134	77	48	58	81	233	59	125	17	30	

（所属略：特養＝特別養護老人ホーム、老健＝介護老人保健施設、障害者施設＝障害者支援施設、通所系＝通所介護・小規模多機能型居宅介護、訪問＝訪問介護、グループ＝認知症対応型共同生活介護、高校生＝福祉系高校等の在校生・卒業生）

5. 教育の内容及び方法

介護技術講習実施要領に規定されている介護技術講習の内容及び時間数を参考に作成した本学の「介護技術講習会日程表」(表2)に基づき4日間32時間の講義と演習を実施した。講義は、各項目について「介護福祉士国家試験・実技試験免除のための介護技術講習テキスト」(以下、テキスト)²³⁾²⁴⁾を用いて主任指導者が交替で行った。演習は主任指導者が統括、各班1名の指導者が、1班8名以内の受講者を指導した。演習は、テキストの事例A及び事例Bを用いて行った。また、指導方法の統一を図るため独自に香川短期大学実技マニュアル(表3)を移動、食事、衣服の着脱、排泄、入浴の各項目について作成、活用した。「介護過程の展開」は1日目2.5時間、4日目演習3.5時間に分けて行った。1日目は、事

例A及び事例Bについて、テキスト、アセスメント用紙²⁵⁾(表4-①～③)、(表5-①～⑥)、(表6-①～②)、その他の資料²⁶⁾を使用して講義を行った。学んだ内容について実践力を付けるため、各自、勤務先事業所等の承諾が得られた利用者を対象に実際に情報収集、情報の分析、課題の抽出を行い、記入したアセスメント用紙を3日目に提出させた。4日目に指導者は受講者各自が立案した事例を基にグループワークを活用した演習を行った。

6. 修了認定

修了認定²⁷⁾は「総合評価」及び「受講態度」の結果により行った。10点満点のうち、「総合評価」8点配分の5点以上、「受講態度」2点配分の1点以上、合計6点以上を認定し、それ以下の場合是不認

表2 介護技術講習会日程表
香川短期大学 介護技術講習会

日程表			
月日	時間	形態	内容
○月 ○日	8:20～ 8:30	オリエンテーション	
	8:30～11:00	講義	介護過程
	11:00～12:00	講義	コミュニケーション
	12:00～13:00	昼 休 み	
	13:00～14:30	演習	コミュニケーション
	14:30～18:30	講義/演習	移動の介護1
○月 ○日	8:30～12:30	講義/演習	食事の介護
	12:30～13:30	昼 休 み	
	13:30～17:30	講義/演習	衣服の着脱の介護
○月 ○日	8:30～12:30	講義/演習	排泄の介護
	12:30～13:30	昼 休 み	
	13:30～17:30	講義/演習	入浴の介護
○月 ○日	8:30～12:00	事例検討	介護過程の展開
	12:00～12:30	総合評価オリエンテーション	
	12:30～13:30	昼 休 み	
	13:30～16:30	実技試験	総合評価

表3 香川短期大学実技マニュアル（事例A・移動）例

A：山田太郎さん 移動の介護

演習課題

山田太郎さんは、朝食を食べ終えて、いすに座っています。毎朝の習慣で、これから洗面所に歯みがきのため移動します。洗面所への移動の介助をしてください。

利用者	介護者の手順及び声掛け	留意点
朝食を食べ終えて、椅子に座っている。	①顔色など、「健康状態」を確認する。 ②山田さんから見える位置に立ち、視線を合わせて、これから行なうことの説明をする。 「山田さんおはようございます。朝食はおいしく食べられましたか。」 「気分はよろしいですか。」 「いまから、洗面所に行って歯みがきをしませんか。」「ではウォーカーケインを使って歩いて行きませんか。」	・健康状態を確認する。 ・失語症が見られるため「はい」「いいえ」で答えられるように話しかける。
前に寄る	③ウォーカーケインを用意する。 左手でいすを持って、左足に力を入れて前へ寄るよう促す 「では、今から立ち上がりますので、少し前に寄っていただけますか。」	・ウォーカーケインを山田さんの左側へ置いておく。 ・右片麻痺
立位になる	④立位介助する。 山田さんの右側に立つ。 「左足を少し後ろに引いていただけますか。右足は少し前へ出してもらえますか。」 右手で山田さんの右大腿部を押さえる。 左足は山田さんの右足の踵に当てる。 「左ひざに手を置いて前かがみになって力を入れて立ち上がってください。」「右足はお手伝いいたします。」左手は腰に当て前に押し出す。 「1.2.3」「気分は大丈夫ですか。」	・右膝関節が直角になっているかを確認。 ・立ち上がる直前に押さえる。 ・麻痺肢が動かないように固定する。 ・立位姿勢が安定しているか確認する。
歩行する	⑤歩行介助する。 「トートバックを取って、ウォーカーケインを持ってください。」 「ウォーカーケイン、右足、左足の順に歩きましょう。」 「左へ曲がるのでゆっくり歩きましょう。右足を大きく出してください。」	・ウォーカーケインの持ち方と出し方の確認をする。 ・介護者は右後方から見守る。 (杖→患→健の順) ・曲がり角は注意する。
トートバックを置く	「ウォーカーケインを左側に寄せて、一歩前へ出て出来るだけ洗面所に近づいてください。」 「トートバックを洗面台の上に置いてください。」	

表 4－①介護過程の展開（平成17年度～18年度）

受講者番号		氏名		NO1	
(1)事例の概要					
1)基本情報					
氏名		「活動」			
生年月日		「心身機能」			
性別		環境因子			
要介護度		第三者への影響			
2)これまでの経緯					
3)現在の「生活機能」等					
健康状態					
「参加」					
「活動」					
4)本人の希望					
参加面					
活動面					
5)家族の希望					
参加面					
活動面					

表 4－②介護過程の展開（平成17年度～18年度）

6)目標		NO2	
①主目標:(参加く社会)レベルの目標)			
②活動レベルの目標:		③リスク・疾病管理	
7)チーム全体としての方針			
①基本方針		④家族への指導	
②具体的プログラム			

定となる。前提条件として、遅刻や欠席があった者は総合評価を受けることはできない。総合評価は、財団法人社会福祉振興・試験センター出版の「介護福祉士国家試験・実技試験免除のための介護技術講習指導マニュアル」に記載されている総合評価の項目及び会場の見取り図に基づき行った。課題は演習科目から1例選定し、受講者は総合評価直前の5分

前に課題を与えられ、総合評価前後の受講者が接触することはない等実技試験と同様の方法で行った。各指導者は、受講者ひとりひとりについて、出題された課題が的確に行えているか、評価項目を定めた本学独自の評価表（表7）に基づき評価し、修了認定は指導者全員で協議した。本学における修了者数は合計980人であった。

表4－③介護過程の展開（平成17年度～18年度）

(2)介護過程
アセスメント
NO3

介護計画

課題(情報に基づく判断)	介護の目標	介護内容

情報収集	情報分析

表5－①介護過程の展開（平成19年～21年）

フェイスシート				受講者番号 _____	氏名 _____	作成日 年 月 日	No. 1
基本属性	氏名	性別別(男・女)	生年月日 M・T・S 年 月 日()	入所年月日 S・H 年 月 日	入所回数 ()回		
	介護度	認知症高齢者の日常生活自立度	障害高齢者の日常生活自立度	()手帳 有・無()級	障害程度区分		
生活に関する情報							
1日の生活(現在) 時間 活動内容		1日の生活(過去) 時間 活動内容		()さんの全休係(指示)		居室の環境(指示)	
今までの生活 10代 20代 30～50代 60代～		既往症・健康状態等		(家族の生活状況)		(家族構成(指示))	
現在の生活		入所の経緯や理由		家族の要望等)		(家族の介護に関する状況)	

表5－②介護過程の展開（平成19年～21年）

NO. 2

アセスメントシート(1)

利用者の氏名 _____ 介護者の氏名 _____ 氏名 _____ 作成日 年 月 日

項目	情 報	②利用者の思い	③情報から解釈できる活動(①+②)	アセスメント	④期待される結果・する活動
健康状態	バイタルサイン	①利用者の生活状態としての活動	②利用者の思い	③情報から解釈できる活動(①+②)	④期待される結果・する活動
	血圧(/)	体温(℃)			
	脈拍(/分)	呼吸数(/分)			
	体重(kg)	身長(cm)			
	BMI				
	呼吸状態				
	現在の疾患				
	服薬				
	その他				
	身体機能	視力	有(右・左・上・下) 完全・不全・無		
聞き手		有(部位) 程度 / 無			
咀嚼		使用(部分・全)・無			
嚥下		有・無			
歩行障害		有・無			
歩行		正常・障害有(生活への支障 有・無)			
排泄器		使用・不使用			
排泄器		有・無			
視力		正常・障害有(生活への支障 有・無)			
聴覚		自内聴・聴内聴			
精神機能	認知障害	認知忘れ・見当惑障害			
	行動障害				
	認知	清明・不清明			
	不安	有(強・弱)・無			
	判断力	十分・不十分			
	睡眠	良好・不眠			
	性格				
	その他				

表5－③介護過程の展開（平成19年～21年）

NO. 3

アセスメントシート(2)

利用者の氏名 _____ 介護者の氏名 _____ 氏名 _____ 作成日 年 月 日

項目	情 報	②利用者の思い	③情報から解釈できる活動(①+②)	アセスメント	④期待される結果・する活動	
移動・移動	歩行	①利用者の生活状態としての活動	②利用者の思い	③情報から解釈できる活動(①+②)	④期待される結果・する活動	
	起き上がり					
	立ち上がり					
	移動	自立・見守り・一部介助・全介助・リフト介助				
	歩行	可能(自立・見守り)・一部介助・不可能				
	車椅子	使用(自立・見守り)・一部介助・全介助				
	補助具	使用(自立・見守り)・一部介助・全介助				
	屋内歩行(移動)					
	屋外歩行(移動)					
	その他					
食事	咀嚼					
	嚥下	経口・経管(胃ろう・鼻腸)				
	方法	経口・経管(胃ろう・鼻腸)				
	調理の形態	普通・粥・ソフト食・きざみ・ミキサー食				
	介助	自立・見守り・一部介助・全介助				
	使用物品	エプロン・箸・スプーン・フォーク・補助具				
	食事の摂取量	摂取(有・無) 摂取量(主 / 10 副 / 10)				
	その他					
	排泄	排泄	有・無			
		日中	トイレ・オナール・便器・リハビリ・リフト・リフト			
(日 / 回)		自立・見守り・一部介助・全介助				
夜間		トイレ・オナール・便器・リハビリ・リフト・リフト				
(日 / 回)		自立・見守り・一部介助・全介助				
排泄		有・無				
日中		トイレ・オナール・便器・リハビリ・リフト・リフト				
(日 / 回)		自立・見守り・一部介助・全介助				
夜間		トイレ・オナール・便器・リハビリ・リフト・リフト				
(日 / 回)		自立・見守り・一部介助・全介助				
排便	使用(1回 / 日)・不必要					
その他						

表5－④介護過程の展開（平成19年～21年）

アセスメントシート(3)		利用者の氏名	受診番号	氏名	作成日	年	月	日	NO. 4
項目	情 報			②利用者の思い	アセスメント				
	①利用者の生活状態・している活動		③情報の解釈・できる活動(①+②)		④生活全般の解決すべき課題	⑤期待される結果・する活動			
清潔・整容	入浴の方法	一般浴・特殊浴・その他()							
	洗身	自立・見守り・一部介助・全介助							
	洗髪	自立・見守り・一部介助・全介助							
	入浴回数	回/週							
	洗面	自立・見守り・一部介助・全介助							
	口腔ケア	歯ブラシ・歯磨・スポンジブラシ・歯磨剤・入浴時							
	整容	自立・見守り・一部介助・全介助							
	その他								
更衣	衣類の選択	適切な衣類の選択が可能・不可能							
	ボタンのかけはずし	自立・見守り・一部介助・全介助							
	衣類の着脱	自立・見守り・一部介助・全介助							
	式パン・パンツなど	自立・見守り・一部介助・全介助							
	靴下	自立・見守り・一部介助・全介助							
コミュニケーション	障害の有無	有()・無							
	意思の伝達	可能・不可能							
	手段	言語・表情・筆談・手話・その他							
	その他								
余暇活動	レク・活動への参加	参加()・不参加()							
	趣味・興味								
	その他								
日常生活	身の回りの整理								
	食料管理								
	その他								

表5－⑤介護過程の展開（平成19年～21年）

アセスメントシート(4)		利用者の氏名	受診番号	氏名	作成日	年	月	日	NO. 5
項目	情 報		②利用者の思い	アセスメント					
	①利用者の生活状態・している活動			③情報の解釈・できる活動(①+②)	④生活全般の解決すべき課題	⑤期待される結果・する活動			
人間関係・参加	家族								
	職員								
	他の利用者								
	社会的役割								
在宅復帰への検討	主たる介護者								
	主たる介護者の健康状態								
	住環境								
	活用できる社会資源								

表5-⑥介護過程の展開（平成19年～21年）

介護計画表(No.) 利用者の氏名 介護施設名 氏名					NO. 6 作成日 年 月 日	
【総合的支援方針】						
生活全般の解決すべき課題 (以下より)	期待される結果・する活動 (解決目標・5より)	具 体 的 援 助 方 法 (いつ、誰が、どこで、何を、どの程度、どういう方法で)	月 日	結 果 ・ 反 応	月 日	評 価 ・ 修 正

8. 考察

厚生労働省は、「2020年代初頭に向けた介護人材確保について」²⁸⁾、介護職の魅力とさらなる対策においてさまざまな策を講じている。今後の新規入職者は、年間20万人の増加を目標に掲げている。介護技術講習会開催回数と受講者数²⁹⁾(表8)は、本学開催回数30回、受講者数1,028人、香川県内実施施設数5校により、開催回数166回、受講者数4,329人、全国開催回数22,425回、受講者数586,609人であった。このように、実施施設は、多くの介護福祉士受験資格を有する者に、介護福祉士国家資格取得に向けた教育及び実技試験免除となる介護技術講習会を行い、本学においてもその役割を果たしたといえる。青柳³⁰⁾は、介護福祉士「資格取得時の到達目標」の視点からアンケート調査した結果を考察し、介護技術講習会は、介護技術の向上を図るという目的は達成されたとしている。尾台³¹⁾は、介護教員の負担は大きい、教育の質・現場の介護の質を向上させていくことにつながり、前向きなとらえ方が大半を占めているとしている。このように、介護技

術講習会は、求められている介護職員の質的向上に寄与できたといえる。

本学における受講者では、訪問介護員が多かった。訪問介護員は、調理、清掃などの生活援助のみの者もいる。演習中に「車いすを触ったことがない」という受講生が複数いた。実技試験の採点基準は「介護技術の提供過程の的確な評価、利用者の安全・安楽、利用者の自立支援・人権尊重等」³²⁾を重視しており、これらを踏まえた実技が評価されるため、生活援助が中心の訪問介護員にとって実技試験は難しいと感じる者が多かったのではないかと考えられる。関谷ら³³⁾の、介護技術講習会を受講した動機「介護福祉士試験は緊張して実力が発揮できない」が多い等の結果は、本学においても同様と考えられる。丸山ら³⁴⁾は、利用者主体で捉える重要性、コミュニケーションの重要性、介護技術の根拠付けなどに、受講生の意識の変化があり、受講の満足度は高い結果であったとしている。

岩井ら³⁵⁾は、養成ルートと比較して時間数の少なさ、時間数に対して高すぎる到達度など多くの課題はあるが、将来の介護福祉士資格取得への一本化に

表6－①介護過程の展開（平成22年～27年）

フェイスシート（作成日： 年 月 日） 受講者番号： 氏名

①基本情報

氏名	様	性別（男・女）	生年月日	年 月 日
福祉手帳	有・無 （ ）手帳（ ）級		サービス開始利用年月日	年 月 日
要介護度 （障害程度区分）			日常生活自立度	認知症高齢者（ ） 障害高齢者（ ）

②サービス利用までの経過
生活歴（今までの生活・現在の生活・既往歴・入所までの経緯など）

一日の生活

時間

活動内容

③現在の「生活機能」等

健康状態	
活動	
参加	
心身機能	
環境	

表6－②介護過程の展開（平成22年～27年）

介護過程 目標:

情報収集	情報分析	課題	解決目標	介護内容
【健康状態】				
【参加】				
【活動】				
【心身機能】				
【環境因子】				
【個人因子】				

表7 評価表

香川短期大学介護技術講習会 総合評価表

移動の介護(事例A)

班 氏名

評価項目	○ or ×
挨拶をしこれから行う介護について説明し同意を得たか。	
失語症であることを考慮し「はい、いいえ」で答えられる声かけをしたか。	
ゆっくり、落ち着いた口調で視線を合わせてコミュニケーションを行ったか。	
利用者の健康状態、気分の確認、座位の安定を確認したか。	
これからウォーカーケインをつかって歩行することの同意を得て、ウォーカーケインを利用者の左側に用意したか。	
立ち上がりの準備のため浅く腰掛けるよう左足に力をいれ前に寄るようにし、足の位置(左足を引き、右足は直角)に注意したか。	
立ち位置は適当か。(利用者の右側に立つ)	
麻痺肢が動かないよう左足で利用者の右足のかかとを支え、膝おれの防止のため、大腿部をおさえたか。	
前かがみになって立ち上がりやすいよう促し安全に注意して立ち上がらせることができたか。	
立ち上がった際、立位の安定を確認し、気分の確認をしたか。	
歩き始めの際、両足を揃えるよう促し、ウォーカーケイン、右足、左足の順で歩行するよう説明できたか。	
歩行の際は、右後方から見守っているか。	
曲がり角で安全に歩行できるよう配慮し、右足を大きく出すよう説明できたか。	
できるだけ洗面台に近い位置に立たせることができたか。	
自立に向けた声かけをしたか。	
終了時に気分の確認をし、終了の挨拶をしたか。	
総合評価の点数合計	点
受講態度など(2点)	点
合計	点

表8 介護技術講習会開催回数と受講者数

		受講者数（人）						
香川短期大学		香川県				全国		
	開催回数	受講者数	開催校数	開催回数	受講者数	開催校数	開催回数	受講者数
平成17年度	4	160	5	12	(定員) 480	273	956	(定員) 35,816
平成18年度	4	160	5	16	(定員) 640	295	1,700	(定員) 60,475
平成19年度	4	160	5	20	700	292	2,161	55,447
平成20年度	4	104	5	20	408	283	1,889	47,500
平成21年度	2	80	5	14	518	264	1,807	54,035
平成22年度	2	74	5	15	545	250	1,947	66,514
平成23年度	2	36	5	11	344	231	2,092	41,178
平成24年度	2	57	5	13	423	223	2,283	55,697
平成25年度	2	72	5	14	509	220	2,555	63,708
平成26年度	2	63	5	16	463	218	2,663	57,870
平成27年度	2	62	5	15	419	210	2,372	48,369
合計	30	1,028		166	4,329		22,425	586,609

向けた制度改革の実現というさらに大きな課題へ進む経過であるとしている。実際、実務者ルートは、平成28年度介護福祉士国家試験から実務経験3年以上に加えて450時間の実務者研修³⁶⁾(表9)修了が受験資格の要件となった。介護技術講習会は、介護福祉士の質の向上を図る上で、教育の必要性が認められるために効果を果たす存在であり、本学においてもその一端を担ったと考えられる。

おわりに

本学は、この11年間に養成施設ルートと実務者ルートの2つのルートの養成に携わった。今後は、2つのルートとも介護福祉士国家試験を受験することとなる。同じ資格を取得するために係る教育時間の違いについて、養成施設ルートは1850時間にどのような介護福祉士を養成したいのか、本学は何ができる介護福祉士を養成したいのか、これまで以上に、明確に社会へ示していくことがこれからの課題となった。

注

- 1) 登録者数の状況：公益財団法人 社会福祉振興・試験センター<http://www.sssc.or.jp/touroku/tourokusya.html> (2017,2,21)
- 2) 介護福祉士養成施設は、介護福祉士法第40条第2項第1号、第2号、第3号に該当する養成施設である。公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会、平成28年度定時総会資料の「介護福祉士養成校数・入学定員」では、第1号2年コース290学科、3年コース17学科、4年コース61学科であり、第2号及び3号の1年コースは合計34学科、総数は378学校、402学科、定員18,107人である。
- 3) 特例高校(介護福祉士法第40条第2項第4号に該当する高等学校)等を卒業した者を含む。http://www.sssc.or.jp/kaigo/shikaku/k_04.html
- 4) 社会福祉士及び介護福祉士指定規則(昭和62年厚生省令49)第22条3による。
- 5) 介護福祉士法第40条第2項第5号の「知識及び技能」を、介護福祉士法施行規則第22条第4項で規定した講習のことをいう。

表9 実務者講習会教育内容及び時間

教育内容	時間数
人間の尊厳と自立	5
社会の理解Ⅰ	5
社会の理解Ⅱ	30
介護の基本Ⅰ	10
介護の基本Ⅱ	20
コミュニケーション技術	20
生活支援技術Ⅰ	20
生活支援技術Ⅱ	30
介護過程Ⅰ	20
介護過程Ⅱ	25
介護過程Ⅲ（スクーリング）	45
発達と老化の理解Ⅰ	10
発達と老化の理解Ⅱ	20
認知症の理解Ⅰ	10
認知症の理解Ⅱ	20
障害者の理解Ⅰ	10
障害者の理解Ⅱ	20
こころとからだのしくみⅠ	20
こころとからだのしくみⅡ	60
医療的ケア（※）	50
実務者研修受講時間数	450

※「医療的ケア」は講義50時間とは別に演習を修了する必要があります。

出典：厚生労働省令第132号，別表第5

- 6) 制度に関する場合は「介護技術講習」，会に関する場合は「介護技術講習会」とする。
- 7) 厚生労働省，「介護福祉士試験の実施方法に関する検討会報告書」について
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/0103/s0330-1.html> (2016.12.3)
- 8) 社団法人日本介護福祉士養成施設協会（現公益法人日本介護福祉士養成施設協会）会長の江草安彦（当時）を座長とした会をいう。<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/06/s0602-6.html> (2016.12.3)
- 9) 和田幸子他，2005年，介護技術講習会の実際と課題，大阪城南女子短期大学研究紀要，40，pp139-142.
- 10) 社団法人日本介護福祉士養成施設協会発行「介護技術講習会事務説明会資料」において平成16年6月25日付「介護技術講習会の円滑な実施について」にて示されている。
- 11) 社援発第1019004号による。
- 12) 厚生労働省，2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～
<http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/kentou/15kourei/3.html> (2017.1.7)
- 13) 主任指導者は，（１）指定養成施設等において社会福祉士介護福祉士学校職業能力開発校等養成施設指定規則別表第四に定める専門科目を5年以上教授（指導）した経験を有する者，（２）介護福祉士，保健師，助産師又は看護師の資格を得た後10年以上実務に従事した経験を有する者，（３）厚生労働大臣が（２）に掲げる者と同等以上の知識及び経験を有すると認めた者である。
- 14) 講習の講義内容と時間は「介護過程の展開」3時間，「コミュニケーション技術」1時間，「移動の介助等」2時間，「排泄の介助」1.5時間，「衣服の着脱の介助」1.5時間，「食事の介助」1.5時間，「入浴の介助等」1.5時間，総合評価2時間の合計14時間以上である。
- 15) 指導者は，高等学校，旧制高等学校若しくは旧制高等女学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者で，かつ，介護福祉士，保健師，助産師又は看護師として，原則として，5年以上実務に従事した経験を有する者と限定されている。
- 16) 講習の講義内容と時間は，主任指導者と同様である。
- 17) 平成17年度の指導者（平成27年度までの変更）は，主任指導者は本学教員3名（2名退職，1名追加），指導者は本学教員2名（3名施設職員から追加後1名退職，1名主任指導者へ変更），施設職員12名（3名本学教員へ変更）が交替で実施した。
- 18) 公益財団法人社会福祉振興・試験センター資格取得ルート図（図1）
- 19) 社会福祉士及び介護福祉士法第四十条第二項第六号の者（平成20年度以前に福祉系高等学校（専攻科を含む）に入学し，卒業した者，特例高等学

- 校（専攻科を含む）を卒業し、9か月以上介護等の業務に従事した者、経済連携協定（EPA）ルート（の者）が対象となる。
- 20) 社会福祉士及び介護福祉士法施行規則第21条第1項第1号に定められたものである。
- 21) 財務省、経済連携協定（EPA）
http://www.mof.go.jp/customs_tariff/trade/international/epa/（2016.12.29）
- 22) 介護福祉士法第21条第1項第2号に介護福祉士試験の受験資格として、インドネシア介護福祉士候補者、フィリピン人介護福祉士候補者、ベトナム人介護福祉士候補者が規定されている。
- 23) 講義は、平成17年3月介護協発行「介護福祉士国家試験・実技試験免除のための介護技術講習テキスト」、演習は、前記テキストに加え、平成19年2月介護協発行「介護技術講習・演習編（事例A・B）の指導内容及び評価項目等〔テキスト副読本〕」を使用した。
- 24) 指導者用テキストは、受講者のテキストに加え、平成16年9月財団法人社会福祉振興・試験センター発行「介護福祉士国家試験・実技試験免除のための介護技術講習指導マニュアル」及び平成19年2月介護協発行「介護技術講習総合評価マニュアル」を演習時に使用した。
- 25) 平成17～18年度は（表4－①～③）、平成19～21年度（表5－①～⑥）、平成22～27年度（表6－①～②）を使用した。
- 26) 障害高齢者の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準、Brunnstrom Stage、12グレード片麻痺機能テスト（判定）、事例Aの「事例の概要」（本学作成）。
- 27) 社団法人日本介護福祉士養成施設協会発行「介護技術講習会事務説明会資料」別紙2修了認定基準
- 28) 厚生労働省 介護人材の確保について 平成28年3月7日（月）全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12301000-Roukenkyoku-Soumuka/0000115426_1.pdf.
- 29) 社団法人（現公益社団法人）日本介護福祉士養成施設協会
- 平成19年度～平成28年度定時総会資料、介護技術講習会都道府県別実施状況を参考に作成した。
- 30) 青柳佳子、2010、介護福祉士「資格取得時の到達目標」からみた介護技術講習会の課題、大妻女子大学人間関係学部紀要、第12巻、p9.
- 31) 尾台安子・丸山順子、2006. 長野県介護技術講習会への取り組みと今後の課題、松本短期大学紀要、第15巻、p40.
- 32) 平成13年3月30日、「介護福祉士試験の実施方法に関する検討会報告書」における採点基準の見直しの項目である。
- 33) 関谷栄子・森山千賀子・西方規恵・土川洋子、2007、介護福祉士国家試験免除のための介護技術講習会実施状況報告、白梅学園短期大学教育・福祉研究センター研究年報No12、p84.
- 34) 丸山順子・尾台安子、2006-03. 介護技術講習会の意義と課題―受講生の意識調査より―、松本短期大学研究紀要（15）、p110.
- 35) 岩井恵子・横井光治、2006. 介護技術講習会における教授法と課題、大阪体育大学短期大学部研究紀要、第7巻、p99.
- 36) 厚生労働省令第132号、別表第5による。

引用文献

- 1) 和田幸子他、2005年、介護技術講習会の実際と課題、大阪城南女子短期大学研究紀要、40、p140.